

教育再生民間タウンミーティング in 新発田

新発田から 教育再生の炎を

—画一性の斉唱にはならず—

吉田 武雄

はじめに

6月30日(土)午後2時～5時、新発田市生涯学習センター(講堂)で、約200人の参加で熱心な議論がなされた。中山成彬(元文科相)、八木秀次(日本教育再生機構理事長)、地元から渡辺秀晃(元新発田市教育長)、鬼嶋正之(元紫雲寺町長)、渡邊明紀(元新発田青年会議所理事長)、松田優子(藤塚小学校PTA会長)の各氏がパネラーとして登壇した。発言がひとわり濟んだ後に休憩し、フロアーからの発言があり、定刻に終わった。男性九人、女性四人のフロアーからの提言があった。新発田は人口一〇万五千の田園都市。

主催は、NPO(民間非営利組織)明日の教育を考え

る市民の会、共催が日本教育再生機構、後援は新潟県教育委員会、新発田市、新発田市教育委員会、新発田市青年会議所、市内三つのロータリークラブと二つのライオンズクラブ。主催団体は、「明日の教育を考える市民の会」、設立三カ年を経て会員三〇〇〇人を目指して活動し、市内各所に会の看板を掲げている。地区懇談会で会員の拡大に努め、政府の教育再生の施策に呼応し、「これに併行する形で市民の先頭に立ち市民意識の改革、高揚を図り家庭、地域の教育力を復活させ、二一世紀を担う子どもたちを夢と誇りを持ち、真理と平和を希求する日本人に育てる為の諸活動を積極的に展開してきた」と総括している。

新発田市における子ども教育に関わるひとつの潮流を見た思いがした。明らかに政治的立場をもって

人々を組織しようとする人と教育や社会の現状に心を痛める人と多様な流れがあったように思う。以下スケッチして参考に供したい。まず共催団体の教育再生機構とは何か。

一 日本教育再生機構とは

美しい日本の心を伝える日本教育再生機構というのが、フルネーム。東京・上野に事務所を置き、機関誌をだし、サポーターを募集している。法人サポーター、年額10万円。個人サポーター、同5万円、準サポーター、同1万円、登録サポーター、同5千円。

以下の五つの方針を掲げている。1. 伝統文化を継承し、世界に発信します。2. 心を重視する道徳教育を充実させます。3. 男女の違いを尊重し、家族を再興します。4. 教師力を向上させ、学力を取り戻します。5. 教育再生を願う志と志をつなぎます

機関誌「教育再生」(隔月刊)のなかみを見れば、何を狙っているか更に明白になる。6月号(20頁)は、「日本の教育をどう立て直すか」という鼎談。石井昌浩氏(元国立市教育長) 池田佳隆氏(前日本青年会議所会頭) 八木秀次氏(日本教育再生機構理事長) が次のような小

見出しで話し合っている。

「子ども中心主義の見直し」「なぜ日教組支配は続くのか」「改正教育基本法を否定する『教育小六法』」「教育の地方分権が国政全体を突き崩す危険性」「安倍総理の『精神的な改革』が支持されている」「教育再生会議よ、ここは譲るな」

なにを譲るなどいつているのか。道徳を教科にすることを貫けということ。八木氏は「道徳反対」の理念だけが子供*に吹き込まれている。子ども自己決定論は誤っている、と。石井氏は道徳教科書を国語や公民の教科書とリンクさせてつくるべし、と。池田氏はDVD近現代史教育アニメ「誇り」を作り、日本人としての歴史観や国を愛する心、世界平和の尊さについて全国の青年会議所メンバーと共に子供たちと考えるプログラムをすすめる、と。八木氏はこのアニメが結論を押しつけず、考えさせる良い構成で、もっと現場で活用してもらいたいと賞賛する。

二 民間タウンミーティングは〇六年秋から

なぜこの時期から始めたか。政府主催のタウンミーティングが、やらせであることが暴露されて休止せざ

るを得なくなつたのが〇六年夏である。替わる形で、秋には東京会場を最初に、山形、仙台、宇都宮、金沢、岐阜、静岡、神戸、松江、阿蘇などに開いてきた。

学校（教員など）、保護者（家庭）、地域の三者が一堂に会することで、各地での教育再生のネットワーク作りを目指し、それをもとに政府の政策をリードしたいと謳っている。

受け入れる地元の組織は、青年会議所の他、教職員 の団体、PTA連合などが見られるし、新発田のようにNPO組織もある。

三 八木理事長は何を語ったか

中山元文科相、八木理事長らは、著名な靖国史観の活動家である。いまの教育状況をその視点で語った。

八木氏は、最近愛知の三河地方の県立高校を三つ、豊田市の公立中学校を一つ視察したという。その地方は教職員組合の力が弱く、教員はプライドを持ちネクタイをしている。中学校の成績評定が1の生徒が集まる高校も、先生方の指導で挨拶がよく、トイレがきれい、茶髪・ルーズソックスなし、一例、遅刻一回リイェローカード、三回で親を呼ぶのが指導方法。

そのように生活指導をしているうちに学力がつき、愛知教育大に入学する生徒も出た、とも。

中学校は、生徒会役員が国旗の掲揚・降納を毎日やり、それは名譽な仕事となっている。校長が職員を掌握して学校運営をしているからで、そうでないところは教職員組合が学校をリードしている。

尾張地方・名古屋市の高校には組合所属の指導力の弱い教員が集まるが、生徒は塾で学力を付けるから問題にしないなどと述べた。

憲法学者で高崎経済大学教授という肩書きにふさわしくない予断と偏見の語り口に辟易した。新しい歴史教科書を作る会のトップリーダーでもある八木氏は1962年生まれの若さである。

眼前の問題、例えば学力低下、子どもの非行、親の理不尽な学校への要求などすべてを、戦後の教育思想や理論の間違いにあり、それを進めた民主的といわれる学者・文化人・革新政党・日教組などに責任がある、という主張であり、まさに「靖国」派である。

しかし、地元のパネリストがその構図に従ったわけではない。次にその点を見ていこう。

四 地元パネリストの提言

渡辺元新発田市教育長は、国語教科書にもっと文学作品を載せた方がいいというような、かつて教員でもあつた姿勢で話した。

鬼嶋元紫雲寺町長は、自由保育が流行した時の体験をもとに小学校に適応できぬ子どもが出現した要因を指摘した。権利と義務、個人主義と利己主義などバランスが大切と。渡辺元青年会議所理事長は、二児の父として小学校教育にもっと競争があつていいと主張。

それは自身が建設業の経営者で毎日きびしい競争にさらされている。インドの子どもは6桁×6桁の暗算ができるという。国際競争力の視点からも児童生徒のうちから打たれ強い人間になつてほしいと。

松田優子藤塚小PT会長は、小2と小6の二児の母として、真に必要なのは教育再生より日本再生が先と述べ共感を得た。要旨は次の通り。最近、いじめ撲滅の会議に出たが、中学生が自分の意見を持ち発言していた。むしろ大人が問題で給食費を払わない、官僚も政府もおかしい。宙に浮いた年金、官製談合、松岡農水相は何を守ろうとしたのか。教育再生会議が、テレ

ビを消して母乳を目を見つめながら与えよとか提言しなくて良かった。母乳がでない人や授乳時しかテレビを見られないほど子育てが時間を奪うことを知らない人たちが言っている。こんな事をいっても、システムのなかに住むしかない。収入は下がり、住民税は上がるのに従わざるを得ない。それでも一っだけ言いたい。親の経済的格差が子どもへの教育格差を生まないように、教育費を増やして欲しい。

五 一般席からの発言は多彩で演説会のよう

わたくしは、一番目に次の通り発言した。八木氏という組合支配の学校は現在も過去も新潟県ではない、むしろ組合の力が弱まり息詰まる職場の雰囲気の問題。渡辺氏の競争の強化は、教育に競争の役割を認めつつも手段であつて競争が目的になつてはならない(スポーツの勝利至上主義の害を見よ)。松田氏の教育費増額に賛成。一例として鬼嶋氏が町長の時、町独自の予算でALT(語学教育助手)を配置したのは幼児・児童・生徒の勉学におおくの利益をもたらした。

新潟市からの校長 ジェンダーフリーや男女共同参画社会基本法に強い非難を浴びせ、自分は男女混合

四 地元パネリストの提言

渡辺元新発田市教育長は、国語教科書にもっと文学作品を載せた方がいいというような、かつて教員でもあつた姿勢で話した。

鬼嶋元紫雲寺町長は、自由保育が流行した時の体験をもとに小学校に適応できぬ子どもが出現した要因を指摘した。権利と義務、個人主義と利己主義などパラメータが大切と。渡辺元青年会議所理事長は、二児の父として小学校教育にもっと競争があつていいと主張。

それは自身が建設業の経営者で毎日きびしい競争にさらされている。インドの子どもは6桁×6桁の暗算ができるという。国際競争力の視点からも児童生徒のうちから打たれ強い人間になっているのがいいと。

松田優子藤塚小PT会長は、小2と小6の二児の母として、真に必要なのは教育再生より日本再生が先と述べ共感を得た。要旨は次の通り。最近、いじめ撲滅の会議に出たが、中学生が自分の意見を持ち発言していた。むしろ大人が問題で給食費を払わない、官僚も政府もおかしい。宙に浮いた年金、官製談合、松岡農水相は何を守ろうとしたのか。教育再生会議が、テレ

ビを消して母乳を目を見つめながら与えよとか提言しなくて良かった。母乳がでない人や授乳時しかテレビを見られないほど子育てが時間を奪うことを知らない人たちが言っている。こんな事をいっても、システムのなかに住むしかない。収入は下がり、住民税は上がるのに従わざるを得ない。それでも一っだけ言いたい。親の経済的格差が子どもの教育格差を生まないように、教育費を増やして欲しい。

五 一般席からの発言は多彩で演説会のよう

わたくしは、一番目に次の通り発言した。八木氏という組合支配の学校は現在も過去も新潟県ではない、むしろ組合の力が弱まり息詰まる職場の雰囲気の問題。渡辺氏の競争の強化は、教育に競争の役割を認めつつも手段であつて競争が目的になってはならない（スポーツの勝利至上主義の害を見よ）。松田氏の教育費増額に賛成。一例として鬼嶋氏が町長の時、町独自の予算でALIT(語学教育助手)を配置したのは幼児・児童・生徒の勉学におおくの利益をもたらした。

新潟市からの校長 ジェンダーフリーや男女共同参画社会基本法に強い非難を浴びせ、自分は男女混合

名簿を廃止させ、女の子は女らしく、男の子は男らしく育てる学校にした。そうしなければ、日本は滅びる。

新発田の一高齢者 韓国の友人が金大中政権以降は自国の公教育は滅びたと連絡をくれる。

市内の三人の子の母 親殺し、子殺しの世相を見ると親学が必要で、家庭教育まで国の介入が必要。高校の卒業式で国歌斉唱に座ったままの先生がいたことに不信感をもった。

新発田の男性 ゆとり教育の総合的な学習の時間をまとめて、街の子は農業体験に市内の農村部に泊まり込みで活動を提案。

校長さんらしい男 男女混合名簿や男子生徒にさんづけは、主張している人たちがうさんくさい。大体叱るときには「○○、席に着け」と呼び捨て。組合員は数が減ったが、追いつめられると連合赤軍と同じで過激になる。私の職場の組合員も時折、年次休暇をとって新潟市の「子どもの権利条例」作成の会議に出ているようだ。その条例ができたら、それで子どもらの口から国歌を歌いたくないと言わせるねらいだ。

中山成彬氏のコメント。 松田さんの教育再生より日本再生が先は、同感。例えば元公安調査庁長官が詐

欺容疑で逮捕など。団塊ジュニアの子育てが失敗している例が多い。戦後の自由主義、個人主義の過剰が根元にある。国旗・国歌を尊重することは国際的な常識で、いまだに反対している教員がいることがおかしい。男女共同参画社会基本法は私らが騙されたかもしれない、法改正も考慮する。男女混合名簿に象徴される両性の違いを無視する教育は、子どもの時代から人としての成長を狂わす暗い情念に支配されている。自然体験・農業体験は大切。親学は祖父・祖母を参加させるいい試み。自由保育はいけない、しつづけるときにしつづけ、がまんや集中力を身につけさせなければならぬ。

六 非常に勉強になったという主催者たち

パネラーの二回目の発言は次の通り。

鬼嶋氏 市内に十分な海、山の施設があり自然体験は可能、農業体験も工夫次第で多様な可能性がある。男女平等共同の考え方自体は良かったが、平等の考え方にバランスを欠き、お手々つないでゴールインとか文化祭で絵や書に優秀の賞を付けることをやめたなどが生まれた。

渡辺秀晃氏 韓国のある市と姉妹都市だったが、

十五年前の小学校視察で授業は戦前の日本のそれのように教師主導で緊張感がみなぎっていた。アメリカのいいところを学んでいると聞いた。

八木氏 再び三河地方の学力が低い高校の例で、チャイム着席、五分遅刻は入れないなど生活面の指導の重要性を指摘。花を栽培して地域住民に評価されている。県教委が校長や教員の人事異動を適切にやり、学校運営がうまくいっている。

渡邊明紀氏 コミュニケーションをとれる人に育つて欲しい。新入社員を見るとその力が不足で現場の人たちとの接点がとれないで苦勞している。学校でもそのような視点で取り組んでもらいたい。

鬼嶋氏 大多数の教員は熱心にまじめに勤めている。学校バッシングだけでは再生しない。学校の苦勞に共感したい。

八木氏 教員よりも親の学歴が高く、子供の前で先生を批判する。そういうことはしないマナーがいる。

一般の発言は以下のよう。

ある新発田市議 教員は学校と自宅の往復だけでなく、他から学ぶことが大切、絵でも書でも良い。わたしが大学で週一講座を受けている体験からいえる。

新発田の主婦 汚職、殺人、偽装建築など不正のはびこる世の中を何とかしたい。元文科大臣の政治の力からもみんなが大事にされる世にするように努めてもらいたい。

新発田の男性 車社会の遠距離通勤事情からか、土、日曜日は学校の先生がいなくなる地域がある。地域社会で先生に直接触れあえたい。

新潟市の女性 中、高の子どもがいる。携帯電話は十三歳から加入できる法的しくみ。中学生は70%、80%が携帯を持ち、高校生は100%が持っている。小学校からその使用を指導する必要がある。でも指導できる先生が極めて少ない。

新発田の女性 高校の時、男女混合名簿で何の不利益もなかったし、男女の仲がいいクラスだった。男女共同参画社会基本法は国連の主導で北京の国際的な会議をもとに作られた経緯がある。いまさら反対などといったら、世界から笑われる。日本は男女平等にについてはまだ遅れていると政府も認めている。中山氏の奥さんは如何だったのですか。

新発田の男性 日章旗は新発田藩主が一八五三年に薩摩藩主とともに制定に努めた史実からも大切にし

たい。ナシヨナリズムを煽る意味でなく。

新発田の男性 家族制度がこわれて、子どもは下校しても留守の家に過ごす。祖父や祖母の出番がない。長岡で高校生が学校のトイレで分娩した事件は、親も先生も妊娠が気づかなかったという信じがたい話。

中山氏のコメント。

先生方が子供を人間味豊かに育成することが肝要。教育勸語的なものがあれば良かったが、なくなつた。先生がいけない地域はないように、そこに住む先生を求めたい。妻は大蔵省で男女平等に扱われたかは疑問、ただ妻を尊敬するのは子供を産めること。社会が競争しているときに学校が競争なしではいけない。切磋琢磨といつてもいい。先生方の処遇はよくしたい。少子化で学校統廃合は必然で、適正規模の学校がいい。

まとめにかえて

ある政治的意図をもつての発言ととともに世相を憂いた発言と混在しているが、新発田における教育に対する有力な流れを示していた。市内いたるところにNPO「明日の教育を考える市民の会」の大きな看板が目立っているのと一致する。

教職員組合や革新政党が戦後六〇余年の歴史のなかで、子どもの幸せのために何を努め、何を獲得してきたのか、それがいまどのようなふうとしているのか、改めて問われている。

「靖国」派の歴史認識は、このミレーティングでもかなり露骨に現れていた。しかし、パネリストのすべてが同調しなかった。わかい青年会議所理事長だった渡邊氏も松田PTA会長も、松田氏はむしろきびしく批判した。そこに戦後民主主義の成長を見る。

戦中派でもある渡辺元教育長も積極的な賛意を「靖国」派に与えなかった。もしそうすれば、自身の半生を否定することになる。鬼嶋元町長も同じこと。今回は明らかにできなかったが、「靖国」派の主張は、世界には全く通じない時代錯誤も甚だしいものである。男女平等に反対する彼らの考えは奇異であった。

この集会の数日後、アスペルガー症候群の小学生にあった。「靖国」派の視野には臣民の思想はあつても、障害児の成長や人格の完成の思想はないと気づいた。旧教育基本法の実質的な復活が求められている。

*「靖国」派は「子ども」でなく「子供」を使用。文中で区別した。